

様々な構築方法があった方形周溝墓

～荒尾南遺跡（大垣市）C地区の方形周溝墓の事例から～

調査課 鷲見博史

方形周溝墓とは

方形周溝墓とは、埋葬する周辺を方形や長方形の溝で区画し、その内部に土盛りをして低い墳丘を築き、そこに遺体を埋葬する墓のことを言います。『きずな57号』『考古学教室18』（平成22年）で荒尾南遺跡の方形周溝墓を紹介しましたが、この時は方形周溝墓の溝の形状や墓の配列、副葬品について説明をしました。今回は、平成18年から23年にかけての発掘作業を終了し、整理作業を進める中で分かってきた荒尾南遺跡の方形周溝墓の特徴について、特に墳丘と主体部（遺体を置くところ）について話をしたいと思います。

墳丘が残っていたC地区の方形周溝墓

荒尾南遺跡では発掘範囲が広大なため、調査は北から南に順に、A・B・Cの3つの地区に分けて行われました。南部のC地区では過去の調査と合わせて、弥生時代中期から古墳時代前期までに造られた方形周溝墓を48基確認しました（図1）。A・B地区の方形周溝墓が周囲を区画する溝しか残っていなかったのがほとんどであったのに対して、C地区の方形周溝墓では、溝だけでなく、墳丘や主体部が残っているものも多く見つかりました（写真1）。つまり、方形周溝墓を構成するすべての要素を確認できたことで、もっと詳しく方形周溝墓について分かってきたというわけです。



写真1 主体部を確認した方形周溝墓群

主体部はどの段階で造られたか

方形周溝墓の主体部は墳丘に設置されました。では、主体部は方形周溝墓築造過程のどの段階で造られたのでしょうか。調査の結果、C地区では、以下の3通りの場合を確認できました。

① 主体部を墳丘に盛土する前に造り、その後その上に土

を盛ったもの

- ② 盛土する途中で穴を掘り、主体部を造ったもの
 - ③ 穴は掘らず、盛土する途中で、遺体を置いたもの
- いずれも墳丘に盛土する前か、途中で主体部を造っており、墳丘が完成した後、再び穴を掘って主体部を造る例は皆無でした。

どのように墳丘の土は盛られたか

墳丘の構築方法が明らかになったものについて、盛土の方法を見ていくと、およそ3つに大別できます。

- ア 水平を基本に全体を盛土していくもの
- イ 中央に盛土して、その後周囲を盛土していくもの
- ウ 周囲を土手状に盛土した後、その内側を充填するように盛土していくもの（写真2・図2）

ウの場合は、主体部は穴を掘らずに、遺体を置いたものに関連する盛土の仕方、周囲を土手状に盛土することで、中央の凹んだ部分に遺体を安置したと考えられます。このような墳丘の盛土方法と遺体の置き方は荒尾南遺跡の南西にある養老町象鼻山1号墳にもみられるものです。



写真2 周囲を土手状に盛土した後、その内側を充填するように盛土して造られた方形周溝墓（SZc40）

方形周溝墓を造ったのは誰か

このように、同じ遺跡内に造営された方形周溝墓でも、様々な造られ方をしていることが明らかになりました。それらは墓の形状やそこに供えられた土器とともに、当時墓を造営した人々の死生観や葬られた人物の地位や権力、周辺地域との関係などが大きく反映していると思われます。しかし、これまでの荒尾南遺跡の発掘調査では特に弥生時代中期、方形周溝墓の造営が最盛期を迎えた時期の集落跡を発見することはできませんでした。これらの墓を造った人々はどのような集団であったのかなど、興味が深まる場所ですが、それは今後の研究の進展にゆだねることにしたいと思います。

図1

荒尾南遺跡C地区の方形周溝墓

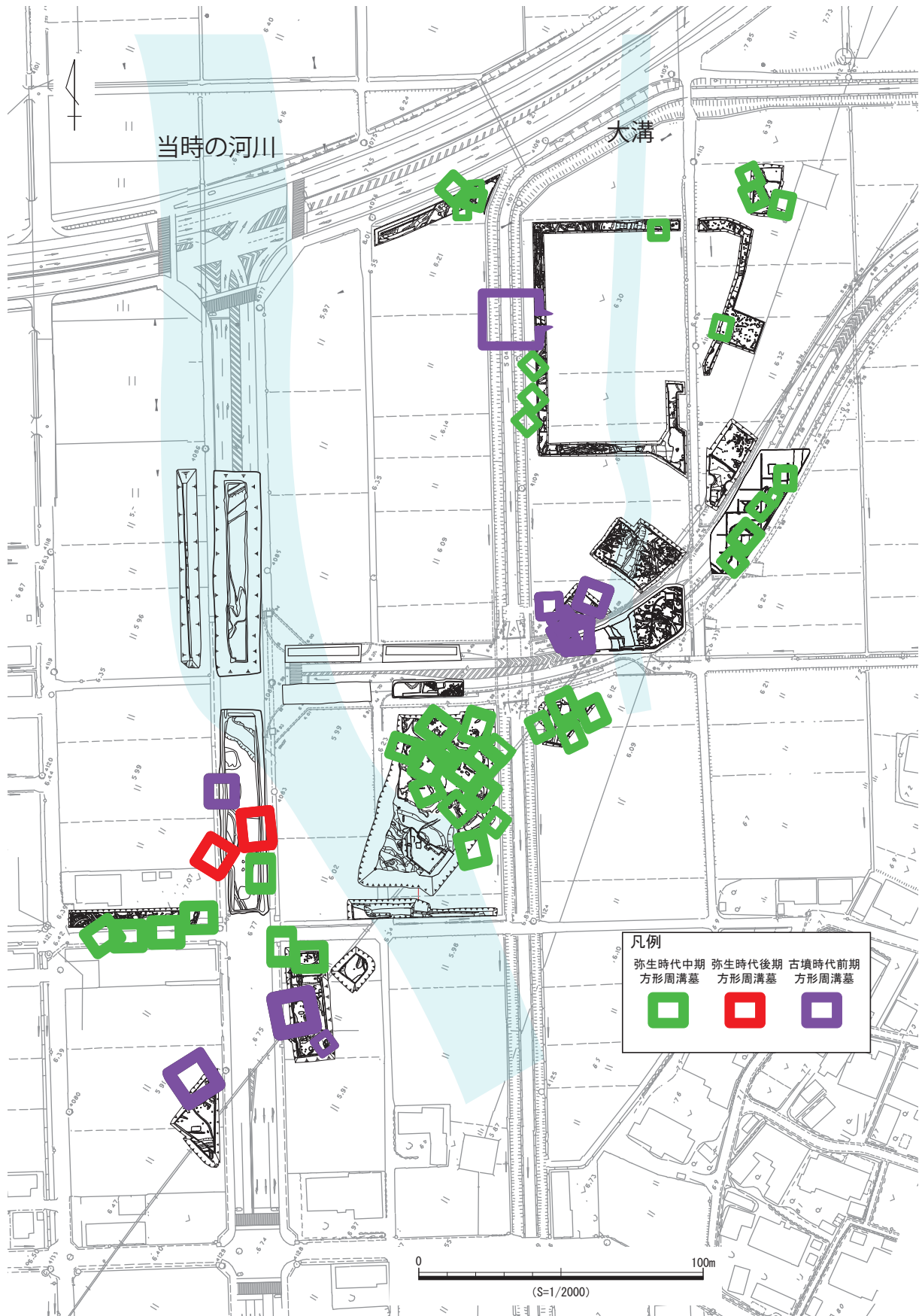
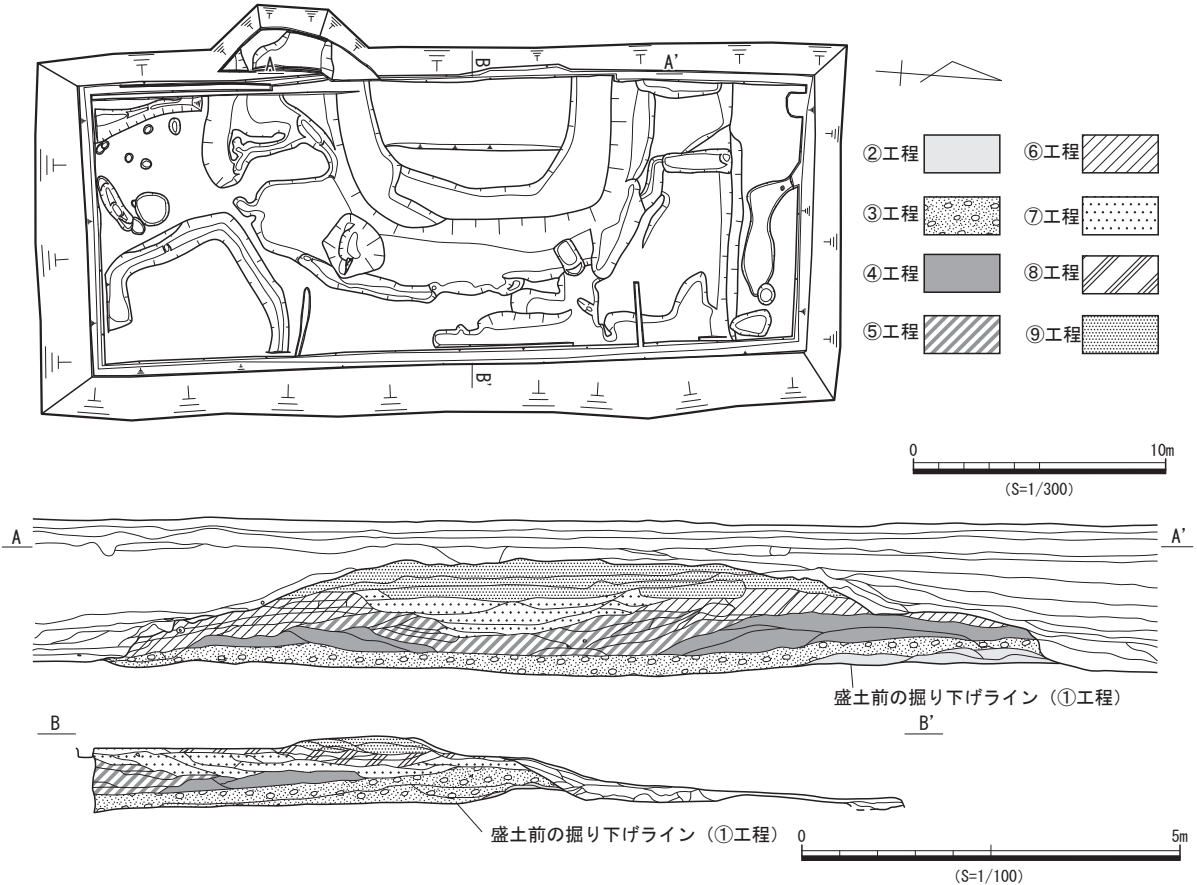


図 2

周囲を土手状に盛土した後、その内側を充填するように盛土して造られた方形周溝墓（例 SZc40）



①工程

周溝部も含めて全体を地表面から 30~40 cm掘り下げる。墳丘中央部が最も深くなるようにし、墳丘裾にあたる部分を方形に巡る畦状に少し高く残した上で、周溝部を墳丘裾部よりも少し深くする。

②工程

方形の畦状の高まりにさらに盛土をして、土手状にしているが、南辺中央ではその盛土は確認できない。

③工程

全体的に黒色系の粘質土を盛る。縁辺部ほど厚く盛っているため、中央部の凹みがやや目立つ。

④工程

縁辺部やや内側に土手状に盛土する。北辺では比較的厚いが、北東隅から南辺にかけては北ほど盛土をしていない。

⑤工程

中央の凹みを充填するように盛土する。まず中央から南半にかけて土を入れ、その後中央から北半に土を入れている。それでも中央部はやや凹みが残る。

⑥工程

縁辺部やや内側に土手状に再び盛土するが、北辺と南辺では確認できるもの、北東隅から東辺、南東隅では確認できない。可能性として、南中央から西辺、北中央にかけてコの字形に盛土をしていることが考えられる。この盛土では、南辺の盛土は2回に分けている可能性がある。

⑦工程

再度中央に凹みができており、ここを埋めるように中央から東辺にかけて盛土している。この盛土をする前に遺体を置いている可能性が高い。

⑧工程

東辺のみ⑥工程の土手状盛土がなく、低いままであったところに、北辺や南辺と高さを揃えるように盛土をする。

⑨工程

最終的な盛土をするが、このときには、各辺の縁を1~2 m程平坦に残して、中央部及び南東隅に盛土している。